

災害時にみる地域の

『きずな』の大切さ

〜地域コミュニティが力を発揮するとき〜



3月11日に発生した東日本大震災により被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

さて、こんな時だからこそ、地域のきずなの大切さについて考えてみたいと思います。

ライフスタイルの変化や価値観の多様化に伴い、都市部など多くの人口が集中する地域を中心に、住民の地域コミュニティに対する意識・関心の低下が顕著になってきています。

羽村市でも、町内会・自治会への加入率が年々低下していく傾向がありますし、ご近所どうしの交流も希薄になりつつあると感じている人もいらっしゃると思います。

地域のために様々な事業に取り組んだり、ご近所どうしでお付き合いすることも、気をつかうのでついつい敬遠してしまうという人もいるの

ではないでしょうか。

確かに、現在の社会は物質的に恵まれ、こうしたことに関わらなくても何不自由なく暮らしていけるかもしれませんが、

でも、こんなこともあるんです。

平成16年に発生した新潟県中越地震でのエピソードをご紹介します。

この地震ではたくさんの家屋が壊れ、倒壊した建物に閉じ込められてしまった方もいました。しかし、日ごろ交流しているご近所の方々の持つ情報が重要な手がかりとなり、迅速な救助につなげることができたという事例がありました。

地震が発生した時間帯は午後6時前後です。個人情報うんぬんは別として、日ごろからご近所づきあいのあるお宅では、そこに住む方がどの部屋で食事をしているとか、あるいは寝たきりのお年寄りがいって普段どの部屋で過

ごしているかといった情報をご近所の方がもっていました。この情報をもとに効率的な救助活動が展開できたのです。

しかも、公的機関の手の届かない初期の救助活動は、まさに近所に住む人たちのマンパワーが最大の力を発揮したのです。

この震災でのエピソードをもつてご紹介します。

震災の発生を受けて、羽村市からも救援物資を届けに行きました。現地の避難施設にはたくさんの方が寝泊りしていましたが、避難所で食料や水等、物資の配布や施設の管理の中心的役割を担っていたのが、市の職員とその地域の町内会の方々でした。

現地に到着したのは夜になってしまいました。町内会の方々が物資の荷おろしに快く協力してくださり、また、地元の消防団は、運んできた飲料水を点在する避難場所に届けるため、危険を顧みず、崩れかかった道路を自ら先導して案内してくれました。

これも地域の方々が連携して困難を乗り越えようとする、まさに地域のきずなの力を示している事例といえます。

地域の皆さんが問題に立ち向かおうと心を一つにした時、とても大きな強い力となって動き出すものなんです。今回は災害時の例を取り上げましたが、日頃の生活の中でも、大小様々な困りごとがあるはず。ご近所に相談できる人がいるのも心強いもの。

ご近所同士が関心を持ち合うことが、暮らしやすいまちづくり、いざという時にも負けない強いまちづくりにつながるのではないのでしょうか。